

育てよう一人ひとりの人権意識
人権週間記念公演会

障害者週間（12月3日～9日）で障害者の日である12月9日、人権週間（12月4日～10日）を記念した、人権週間記念公演会が文化会館で開催されました。

今回は岐阜ろう劇団「いぶき」の皆さんをお迎えし、「その瞳に映る花は」と題した公演を行いました。



▲ジョニーと勇太

劇は、医者の子「勇太」とホームレスの男「ジョニー」がある公園で出会うところから始まります。友達となった勇太は、ジョニーが幼いころに別れた娘との再会を手助けすることになり……



▶娘との再会



▲友情の再確認

外見や学歴・職業で、人を評価してはいけないことなどが、手話に分からない観客のために、袖から別のメンバーがせりふを読む形で公演は進行しました。

劇団員の手話を交えながらの表情や動きなど、豊かな表現力に共感の拍手が続きました。

公演終了後、「障害は個性である」という劇団代表の河合依子さんのことが印象的でした。



▲代表の河合依子さん



▲人権作文朗読

また、開会行事では、昨年度、市が募集した人権作文・詩の入選作品の中から味坂小学校 さとうりゅうしんさん、小郡小学校 池田瑞紀さん、のぞみが丘小学校 古井智佳さん、大原中学校 入江菜摘さんから4人の小・中学生の人権作文と詩を作者本人が朗読し、自身の体験を通して、障害者問題やいじめのことなど、お互いの人権を尊重しあう大切さを訴えました。

参加者の感想・意見

人権作文や公演など、今まで気づけなかったことを知ることができて良かった。（女・20代）

私も生まれつきの難聴のため、人と関わることが嫌いでしたが、少しかだけ勇気が持てた気がします。（女・30代）

ホームレスの人権についてのことでしたが、全ての人の人権に通じるものがあると感じました。（男・30代）

「おれを人間だと言ってくれ」と言うセリフのところは、涙が出てしまいました。今、手話を勉強しています。手話は、心で話すものだなと思いました。（女・40代）

人権作文の朗読は、私たちが見過ごしていることがあるので、とても良いと思いました。「いぶき」の公演は、表現力が素晴らしい公演でした。（女・50代）

表現力がすばらしく、人として考えさせられる所がたくさんありました。（女・50代）

小中学生の発表について、思いやりや自分の考えがしっかりしているのに感心しました。（男・60歳以上）